



満月を舐め終えたらし屋根の猫

森岡香代子

月と屋根と猫は、絵になる風景の三点セットである。読者の想像力をかきたてるシチュエーションがいいし、なんといっても詩があるね。



群れ蜻蛉群れては何も残るまい

井口夏子

どこにも、群れたがる奴と孤高を保ち続ける奴がいる。作者はきっと後者のタイプに違いない。残そうとしているのは金品か、それとも俳句集か。



尺蠖に我が身の丈を測られる

相原共良

尺蠖虫ほど、自分の身の丈を知っている生き物はいないだろうね。世の中には身の程を知らない輩がいっぱい。尺蠖にきちんと測ってもらおうといい。



夏痩やドリンク剤を一気飲み

山本 賜

夏痩せしてラッキー、などと言うのは若い人の台詞。ダイエットも同じ。「ダイエットして凹凸を失へり」で、何でも痩せればいいというもんじゃない。



表面に栗を盛り付け栗ご飯

堀川明子

伝統的な正しい栗飯の盛りつけ方である。栗は表面だけという「あげ底」式。これは作る側、食べる側の暗黙の了解で、互いの思いやりの上に成立。



名月を欲しがることのしかりかな

山下正純

「しかりかな」がうまい。一茶の「名月を取つてくれろと泣く子かな」など、名月を詠んだ名句は多いが、名月の見事さを「しかり」でしっかり表現。